

青葉の季節ですね



本校 HP をご覧いただいている皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

様々な緑の競演が目を楽しませ、心を和ませてくれます。緑の山々に降り注ぐ陽光が生み出す陰影もまた見事です。また、ぽっかり浮かぶ雲の白さや空の淡い水色が、緑の美しさを一層引き立たせています。

「目には青葉、山ほととぎす 初鰹」

校内のあやめ園を歩いていると、緑溢れる清々しい空気の中、ふとこの句が浮かびました。この季節を視覚、聴覚、そして味覚で捉え、軽やかなリズムで詠まれた素晴らしい句です。古代の日本では、色の名前は「白、黒、赤、青」の四つだけで、緑は青という語に含まれていたそうです。「緑葉」と言わず「青葉」と呼ばれる所以でしょうか。みどりは、緑、碧、翠と様々な漢字で表現されますし、若竹色、若草色、もえぎ色など、微妙なみどりの違いを表すことばが沢山あるのは、四季豊かな日本に暮らす日本人ならではの感性が生み出したものなのでしょう。

新緑を目で楽しみ、何処からともなく聞こえるホトトギスの軽やかな歌声に耳を澄まし、そして食卓に上がる初鰹に舌鼓を打つ。古来繰り返されてきた自然の恩恵に支えられた私たちの日々の暮らしが、穏やかに続いて行くことを願っております。

現実には目を向けますと、不寛容社会、批判社会と形容されることの多い、何かとぎすぎすした世の中で、人の心も潤いを失い、ぱさぱさに乾いているように思います。「余裕」「余白」「ゆとり」「寛容」「度量」また、「いい意味での無駄」といった美質が世の中から失われつつあるようにも感じられます。少し立ち止まって、自然や季節の移ろいを感じることも心豊かなになるのではないのでしょうか。「目には・・・」の句も「は」を入れることで字余りが生じていますが、この無駄に思える「は」こそがこの句の命であり、何かゆったりとしたリズムや余韻を生み出しています。

青葉まぶしく、風薫る季節です。忙しい日々をお過ごしのことと思いますが、疲れた時には外に出て、気持ちのいい空気を吸って、自然が織りなす色々を愛で、自然が奏でる音に耳を傾けてみてはいかがでしょうか。私も野山の緑の競演を楽しみつつ、食卓では様々な山海の恵みを感謝して戴きたいと思います。皆様にとりまして、健康第一に、健やかな5月となりますよう祈念申し上げます。

平成30年5月吉日